

アカコッコ 英: Izu Islands Thrush 学: *Turdus celanops*

1. 分類と形態

分類: スズメ目 ツグミ科

全長: 約230 mm 露出嘴峰長: 20~23 mm
 翼長: ♂118.4mm (112.0-124.0) ♀112.4mm (108.0-117.0)
 尾長: ♂90.8mm (82.0-100.8) ♀82.5mm (74.0-89.0)
 ふ蹠長: ♂33.7mm (31.9-35.8) ♀32.9mm (32.5-33.7)
 体重: ♂78.1g (73.7-81.3) ♀76.1g (65.9-93.1)

※全長は高野(1990)より, 露出嘴峰長は清棲(1978)より引用。他は標識調査の際の計測値。

羽色:

オスは頭部から胸にかけて黒く, 脇腹や腹部は橙色。目の周りとくちばしは黄色。背中, 肩羽, 雨覆は濃い茶褐色。メスは, 雄に比べると幾分淡い。トカラ列島の個体は, 伊豆諸島に比べて暗色である。

鳴き声:

「キュルルル, チョッ」という濁った声で, 繁殖期前半には日の出時刻の約30分前の薄暗い時間帯にさえずる。繁殖期後半になると, 日中にも鳴く。地鳴きは, 「ツイー」, 「チャッ, チャッ, チャッ…」という声で鳴く。



写真1. アカコッコのオス。
[Photo by 中田一真]

2. 分布と生息環境

分布:

伊豆諸島とトカラ列島に生息する。屋久島, 男女群島での観察記録もある。伊豆諸島では, 大島から青ヶ島にかけて生息し, 北部よりは南部の島で多く見られる。また, 冬に静岡県での標識記録があるほか(山階鳥類研究所 1996), 千葉県, 三重県, 和歌山県などでの記録がある。トカラ列島では, 中之島, 口之島, 悪石島, 平島, 宝島に生息しているが, 伊豆諸島に比べて密度は低い。

生息環境:

照葉樹林や夏緑広葉樹林の自然林から二次林までのさまざまな環境で生活する。特に, 照葉樹林の低木層があまり発達していない場所では個体数が多い傾向がある(樋口 1992)。アカコッコは, 国指定の天然記念物で, 環境省レッドデータブックでは絶滅危惧Ⅱ類に選定されているが, 火山活動による生息地の減少などの課題を抱えている。

3. 生活史



繁殖システム:

繁殖期は3月から7月にかけてで, 非繁殖期には単独で暮らす。一夫一妻で繁殖し, 抱卵はメスが行い, ヒナへの給餌は雌雄で行う。

巣:

樹上に細い木の根や草の茎, コケなどを土で固めたお椀状の巣(外径13~16.5cm, 内径8~10cm, 深さ5.5~7cm, 高さ9.5~13cm)を作る。巣の位置は地上から0.5~6mくらいである(清棲 1978)。



写真2. アカコッコの巣と卵。
[Photo by 田中俊比古]

卵:

一腹卵数は2~5卵で, 3~4卵が多い。卵サイズは長径約29mm, 短径約21mmで, 青地に赤褐色の斑点がある。



写真3. アカコッコのヒナ。
[Photo by 田中俊比古]

抱卵・育雛期間, 巣立ち率:

抱卵日数は不明。育雛期間は約14日。三宅島では, ネズミ駆除を目的としてイタチが導入されたため, 巣立ち率は, イタチ導入以前の85%(樋口・小池 1977), 71~78%(樋口 1981)から, 約7.3%(高木・樋口 1992)に極端に下がっている。

4. 食性と採食行動

早朝と夕方に, 主に林縁部で採餌する様子が観察される。落ち葉の下に棲むミズや甲殻類, ムカデ, 昆虫類などの他, 季節によってはハチジョウグワヤカジイチゴ, タブノキ, オオシマザクラ, エノキ, ハチジョウキブシ, ツルソバナなどの実も食べる。ビデオ撮影により確認できたヒナへの給餌内容は約7割がミズで, その他は, 木の実, ムカデ, 昆虫類, ゲジなどであった。

5. 興味深い生態や行動, 保護上の課題

● アカコッコの起源について

アカコッコの起源は, (1) アカハラに近縁で, 比較的新しい種であるという説と, (2) 中国南部にすむムナグロアカハラに近縁で, 遺存種であるとする2つの説があります。形態での比較(下尾筒羽の模様, 下雨覆羽の色彩等)から, アカコッコは, アカハラを含むアカハラ上種(アカハラ, シロハラ, マミチャジナイ)と, ムナグロアカハラはカラアカハラと特徴が一致し, 両者は別系統で, アカコッコは, アカハラにごく近縁らしいことが示唆されています(梶田ら 1998)。

● 島間で異なるさえずり

アカコッコのさえずりは, アカハラによく似ていますが, 短く濁っています。三宅島の個体群のさえずりは, 図1に示すように2つのシラブルから構成されています。三宅島の

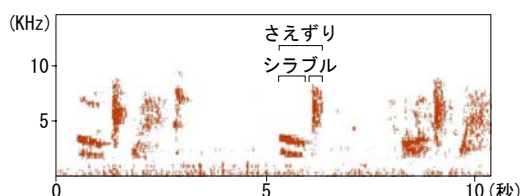


図1.
アカコッコ
(三宅島)のさ
えずりのソナ
グラム。

生態図鑑

南約18kmにある御蔵島の個体群のさえずりも三宅島によく似ています。ところが、さらに南に約90km離れた八丈島の個体群では三宅島のものと比べて、さえずりを構成するシラブル数が少なく(図2)、耳で聞いた感じも全然違った印象を受けます。また、さらに南の青ヶ島やトカラ列島の中之島ではシラブル数が多い傾向があります(図2)。

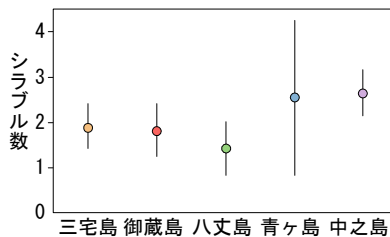


図2. 各島でのさえずりのシラブル数。

● イタチ導入によって下がった繁殖成功率

三宅島では、ネズミの農業被害を防ぐことを目的に1970年代と1980年代の2回にわたってイタチが導入されました。特に、1982年頃の2回目のイタチ導入によって、アカコッコの個体数は大きく減少しました。イタチは木に登ってヒナや卵を食べてしまいます。イタチを放す前に比べてアカコッコの生息密度は約1/3になり、繁殖成功率も約80%から約7%に下がったことが報告されています(高木・樋口 1992)。イタチの放獣は、伊豆諸島では、古くは八丈島、利島、青ヶ島でも行われたため、三宅島と同じような現象が起きたと考えられます。アカコッコの個体群を回復させるためには、イタチ駆除の実施が不可欠です。

● 火山活動による生息地への影響

代表的な生息地である三宅島では、2000年6月から始まった火山活動による降灰や泥流、火山ガスによって森林面積の約6割に影響が出ています。火山活動の初期には、雄山の火口から放出された火山灰によって、標高400m付近より上では火山灰が1m以上も積もり、大部分が裸地化しました。火山ガスの風下にあたることの多い東部では、樹木の枯死が進み、このような場所ではアカコッコは見られなくなっています(写真4)。



写真4. 樹木の枯死が進んだ三宅島東部の森。

2000年の噴火が地表徘徊性の小動物相に与えた影響が調べられていますが、その結果では、「火山灰の被害のある場所」、「火山ガスの被害のある場所」、「両方の被害のある場所」、「両方の被害のない場所」のうち、「両方の被害のない場所」でのみ、ミズが確認されています。

2006年6月に、同様の場所(4地点、各2サンプル)で、鳥類のセンサス調査とあわせて土壤動物を調べたところ、火山灰と火山ガスの「両方の被害がある場所」では、まだ土壤動物は確認されませんでした。「火山灰の被害がある場所」では昆虫だけが確認され、「火山ガスの被害がある場所」では、ミズ、甲虫類、ダンゴムシ・トビムシの仲間が、「両方の被害のない場所」ではミズ、甲虫類、ジムカデの仲間、巻貝などが確認されました。アカコッコは、火山ガ

ス、火山灰の「両方の被害がある場所」では確認されずじまいでした。アカコッコの生息の有無を、ミズとの関係だけから単純に結論づけるのではなく、営巣環境や隠れる場所の有無などの面からも考えていく必要がありますが、少なくとも「火山灰の被害のある場所」ではアカコッコの餌となるミズが見られず、アカコッコの生息に影響が出ているものと思われます。雄山の火口からの火山ガス放出量は最盛期(2000年12月頃)には一日あたり2〜5万トンと世界的にも稀な量でしたが、今年になってからは一日あたり1〜3千トンと約1/20にまで減ってきています。火山ガスの減少とともに、山麓を中心に徐々に森は回復してきていますので(写真5)、標高の高いところでも、早く以前のような森林や土壌が戻り、アカコッコが姿を見せて欲しいものです。



写真5. 回復しつつある自然。泥流が発生し、火山ガスにより樹木が枯死した地域でも、ハチジョウススキとオオバヤシャブシが入り込んできた。

6. 引用・参考文献

- 樋口広芳・小池重人. 1977. 三宅島におけるイタチ放獣後の繁殖成功率. 野生生物保護: 81-88.
- 樋口広芳. 1981. 鳥類生息調査報告書—島しょにおけるイタチ放獣が野生鳥類に与える影響—. 東京都労働経済局, 東京.
- 樋口広芳. 1992. 鳥類の生態と保護に関する調査報告書. 東京都労働経済局: 27-64.
- 梶田学・太田紀子・柿澤亮三. 1998. 伊豆諸島の鳥類の系統分類学的考察(ウグイス及びアカコッコについて). エコツーリズムと島の鳥実施報告書: 52.
- 清棲幸保. 1978. 日本鳥類大図鑑 I. 講談社, 東京.
- 高木昌興・樋口広芳. 1992. 伊豆諸島三宅島におけるアカコッコ *Turdus celaenops* の環境選好とイタチ放獣の影響. *Strix* 11: 47-57.
- 高野伸二. 1990. フィールドガイド 日本の野鳥. 財団法人 日本野鳥の会, 東京.
- 山階鳥類研究所. 1996. 鳥類標識調査報告書(平成8年度): 17. 我孫子市.

執筆者

山本 裕

日本野鳥の会サンクチュアリ室／
アカコッコ館 チーフレンジャー

アカコッコを初めて見てもう13年も経ちます。伊豆諸島では誰もが知っている身近な鳥ですが、まだまだ生態の研究も保護上の課題の解決も十分に進んでいないとはいえません。今回、情報を整理するきっかけをいただき、少しでも前進していければ、と思っています。



三宅島のガイド中にて(写真左)。